

茅野市保育園管理計画

[後期計画]

令和5年3月

茅野市教育委員会事務局

こども部幼児教育課

目次

1	計画策定にあたって	1
	(1) 計画策定の趣旨及び経過	1
	(2) 計画の位置付け及び期間	1
2	子育て環境の現状と課題	2
	(1) 人口減少と核家族化	2
	(2) 就学前児童数と出生数の推移	2
	(3) 子育て環境の整備に対する期待と要求	3
3	保育園を取り巻く現状と課題	4
	(1) 保育園の施設の状況	4
	(2) 入所児童の状況	5
	(3) 民営化の状況	5
	(4) 茅野市の保育・教育事業について	8
	(5) 保育園の職員の状況	9
4	基本的な考え方	10
	(1) 園舎における安全・安心の確保	10
	(2) 園舎の長寿命化の推進	10
	(3) 保育園の適正配置について	10
	(4) 質の高い保育の提供について	10
	(5) 今後の公立保育園の役割と運営のあり方について	11
5	整備計画	13
	(1) 整備における基本方針	13
	(2) 統廃合等の基本方針	13
	(3) 個別保育園の計画	14
	(4) 日常的な定期点検の実施	14
	(5) 長寿命化のための計画的な改修等の実施	14
6	私立保育園・認定こども園への補助	15
7	茅野市保育園管理計画変更履歴	15

1 計画策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨及び経過

平成23年2月に策定された茅野市保育園建設計画は、昭和56年の新耐震基準前に建設された8保育園の建て替え等の計画として策定され、前期計画と後期計画に分かれています。前期計画において、宮川茅野土地区画整理事業に合わせた宮川保育園の建替えと、保育園の民営化に伴う、民設民営によるわかば保育園と横内保育園の建替えを行いました。

後期計画の実施に向かう中、公共施設の整備計画については、平成26年4月に国から地方公共団体に、「公共施設等総合管理計画」を策定するよう要請がありました。

長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することを目的として、茅野市では平成28年から策定に取組み、最終的に平成30年2月に「公共施設等総合管理計画」が策定されました。

茅野市保育園管理計画は、「公共施設等総合管理計画」の個別計画として、また茅野市保育園建設計画を引継ぐ計画として、平成29年2月に策定したものです。

この管理計画によって、平成30年11月には北山保育園と小泉保育園の大規模改修が、令和元年11月には宮川第二保育園と中大塩保育園の大規模改修が完了し、令和2年度10月にみどりヶ丘保育園の耐震改修工事が完了しています。令和3年度には、笹原保育園が民営化となりました。

(2) 計画の位置付け及び期間

本計画は、「公共施設等総合管理計画」及び「どんぐりプラン（茅野市子ども・家庭応援計画）」など関連計画との整合性を図るものとし、中・長期的な視点に立った子育て支援を進める必要性とともに、社会変動に対応できるよう、計画期間は令和9年度（2027年度）までの12年間としました。

個別施設計画として、「茅野市公共施設再編計画」が令和3年3月に策定され、すでに策定されていた茅野市保育園管理計画は、茅野市公共施設再編計画を補完する計画として位置づけが変更になりました。

保育園管理計画における、大規模改修と耐震改修、笹原保育園の民営化は、令和3年度をもって完了したため、令和4年度に少子化に伴う課題と基本的な考え方、整備計画等の計画の見直しを実施し、令和5年度からを後期計画として策定します。

なお、今後の社会情勢の変化などに対応する必要性もあることから、適宜見直しを行い計画変更も可能なものとします。

【計画期間】

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度				
2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度				
←			前期計画			→			←			後期計画		→	

2 子育て環境の現状と課題

(1) 人口減少と核家族化

本市の人口は、平成28年4月は55,666人で、徐々に人口減少となっていました。令和2年10月の国勢調査で増加に転じ、令和3年4月には56,080人となり、それ以後令和4年4月は55,811人とまた減少しています。

一方、世帯数については、平成28年4月は22,329世帯でしたが、令和4年4月には24,107世帯となり、人口は減少しているにもかかわらず世帯数は増加しており、単身世帯の増加や核家族化が進んでいることが伺えます。

表-1 【人口、世帯数の推移】

各年4月1日

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
人口	55,666	55,737	55,646	55,483	55,106	56,080	55,811
世帯数	22,329	22,673	22,962	23,234	23,335	23,948	24,107
一世帯あたり人員	2.49	2.46	2.42	2.39	2.36	2.34	2.32
長野県全体	2.59	2.56	2.52	2.49	2.46	2.44	2.42

出所：長野県毎月人口異動調査結果

(2) 就学前児童数と出生数の推移

就学前児童数は、平成28年4月は2,828人でしたが、毎年減少を続け、令和4年4月には2,340人となっています。就学前の児童数は、出生数の減少から、今後も減少が続くと予想されます。

出生数は、平成28年は422人でしたが、令和2年には新型コロナウイルス感染症の影響からか353人まで減少し、令和3年も同様の状況で減少傾向にあります。

表-2 【就学前児童数の推移】

各年4月1日

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
人口	55,666	55,737	55,646	55,483	55,106	56,080	55,811
就学前児童数	2,828	2,796	2,746	2,637	2,586	2,447	2,340
人口に対する 就学前児童数構成比%	5.24	5.02	4.93	4.75	4.69	4.36	4.19
長野県全体構成比%	4.63	4.58	4.51	4.45	4.38	4.14	4.05

出所：長野県の人口 市町村別・年齢各歳別人口

表-3 【出生数の推移】

各年1月1日～12月31日

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
出生数	422	424	375	399	353	354	299

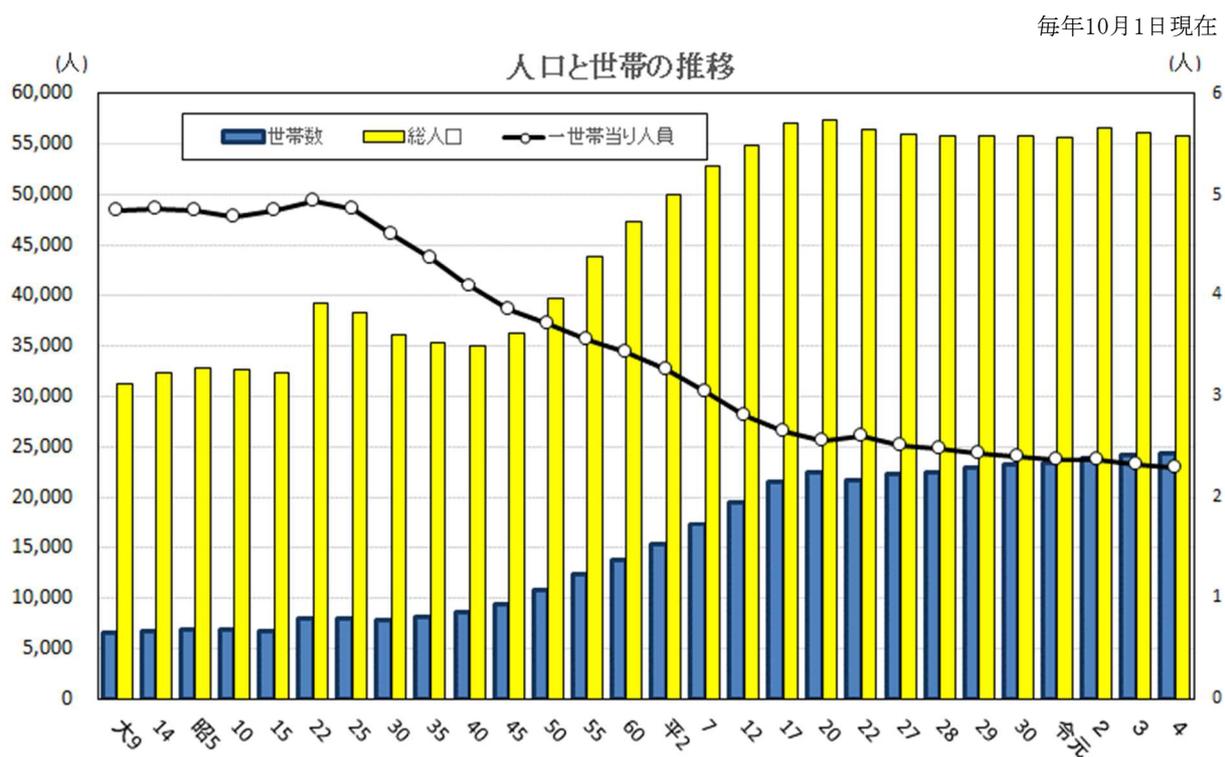
出所：茅野市 人口動態の推移

(3) 子育て環境の整備に対する期待と要求

少子高齢化が進む中、平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連 3 法」が成立し、幼児教育、保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していくことが示され、平成 27 年 4 月から同法による子ども・子育て支援新制度がスタートしました。新制度においては、幼児教育の推進を図るとともに保育の充実を図るため、1 日 11 時間の保育標準時間の設定や延長保育、病児保育など、多様な子育て支援事業が創設されました。その後、令和元年 10 月からは、幼児教育・保育の無償化が実施されています。

近年における本市の人口動態の傾向からも、少子化により、核家族化や地域のつながりの希薄化が進展している状況です。さらには、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、少子化が加速する中、社会的経済環境は大きく変化し、保育園や認定こども園にあっては、子育てに困難を有する家庭への支援や、配慮を必要とする子どもの保育に加え、地域の子育て支援に果たす役割が強く期待されています。

表－4 【人口と世帯数の推移】



資料:国勢調査、毎月人口異動調査

3 保育園を取り巻く現状と課題

(1) 保育園の施設の状況

公立保育園 14 園のうち、昭和 56 年新耐震基準前に建設された保育園が 5 園ありましたが、令和 2 年度までに大規模改修（リノベーション）と耐震改修工事が完了しています。

また、令和 3 年度には、「野あそび保育ささはら」が保育所型認定こども園として民営化され、国と市の補助金を受け、事業者による施設改修が実施されました。

表－5 【保育園等の施設の状況】

令和 4 年 4 月 1 日現在

No.	園名	所在地	許可年月日	定員 (人)	建築年月	築年数	構造	耐震 診断	敷地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)
1	北山保育園	北山4810-1	昭和 35.10.1 (1960.10.1)	100	1973.12 2018.11 (大規模改修)	48	木造1階	対応済	3,186.96	883.72
2	小泉保育園	玉川927-243	昭和 49.4.1 (1974.4.1)	90	1974.3 2018.11 (大規模改修)	48	木造1階	対応済	2,358.77	838.45
3	みどりヶ丘保育園	宮川8630-1	昭和 50.4.1 (1975.4.1)	90	1975.3 2020.10 (耐震改修)	47	木造1階	対応済	4,408.04	838.34
4	宮川第二保育園	宮川1277-1	昭和 28.4.1 (1953.4.1)	60	1975.11 2019.11 (大規模改修)	46	木造1階	対応済	1,814.74	672.70
5	中大塩保育園	中大塩8-12	昭和 56.4.1 (1981.4.1)	100	1981.3 2019.11 (大規模改修)	41	鉄骨造1階	対応済	4,246.59	1,271.03
6	玉川保育園	玉川3439	昭和 30.11.5 (1955.11.5)	220	1989.7	33	鉄骨造1階	対応済	6,229.84	1,377.58
7	湖東保育園	湖東5646-1	昭和 27.4.1 (1952.4.1)	130	1994.3 2001.12 2007.3	28	鉄骨造1階	対応済	4,673.27	1,083.54
8	泉野保育園	泉野2650-1	昭和 37.10.1 (1962.10.1)	60	1996.9	25	鉄骨造1階	対応済	3,500.00	853.20
9	米沢保育園	米沢6160	昭和 37.2.1 (1962.2.1)	120	1998.8 2003.7	23	鉄骨造1階	対応済	6,638.07	1,074.45
10	金沢保育園	金沢1164-1	昭和 37.10.1 (1962.10.1)	100	2002.1	20	鉄骨造1階	対応済	3,238.60	983.13
11	中央保育園	本町東15-14	昭和 37.2.1 (1962.2.1)	90	2005.3	17	鉄骨造2階	対応済	2,010.00	1,356.51
12	ちの園	塚原1-13-5	昭和 25.3.23 (1950.3.23)	200	2007.9	14	鉄筋コンクリート造2階	対応済	3,499.33	1,735.91
13	豊平保育園	豊平2486-1	昭和 34.1.1 (1959.1.1)	100	2011.1	11	鉄骨造1階	対応済	3,743.79	1,267.54
14	宮川保育園	宮川4458-2	昭和 27.6.20 (1952.6.20)	120	2014.2	8	鉄骨造1階	対応済	3,825.00	1,380.64
	(私) 玉川どんぐり保育園	玉川2213-1	平成 18.4.1 (2006.4.1)	210	2006.3	16	鉄骨造1階	対応済	4,999.97	1,735.25
	(私) わかば保育園	宮川11020	平成 26.4.1 (2014.4.1)	200	2014.3	8	鉄骨造2階	対応済	5,717.25	1,555.53
	(私) よこうち認定こども園	ちの2576-1	平成 27.4.1 (2015.4.1)	120	2015.3	7	鉄骨造2階	対応済	2,796.40	1,339.38
	(私) ちのせいほ幼稚園	仲町14-7	昭和 39.3.30 (1964.3.30)	105	1995.3	27	鉄骨・木造2階	対応済	2,198.38	957.69
	(私) 野あそび保育ささはら	湖東1298-1	令和 3.3.26 (2021.3.26)	25	1983.10	38	鉄骨造1階	対応済	2,613.41	389.75
	病児・病後児保育施設 おやすみ館	玉川4444-1	令和 2.4.1 (2020.4.1)	6	2020.3	2	木造1階	対応済	576.98	94.82

(2) 入所児童の状況

令和4年3月1日現在の入園状況は、市内保育園の定員2,240人に対し1,792人が入園しており、定員に対する入園率は80%となっています。ほとんどの保育園で定員割れの状況となり、入園児童数は、少子化の影響もあり減少に転じています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響か、出生数が大きく減少しているため、3歳未満児の入所数は、令和4年度までは増加していましたが、令和5年度以降は減少に向かうと見込んでいます。出生数の回復によっては、増加も考えられます。

表-6 【入所児童の推移】 各年度3月1日 (単位:人)

保育所名	定員 (2021年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)
ちの保育園	200	190	176	171	150	142	133
宮川保育園	120	131	122	130	129	127	129
宮川第二保育園	60	44	55	58	58	63	66
玉川保育園	220	197	194	184	186	180	170
湖東保育園	130	77	81	83	79	95	89
笹原保育園	-	23	22	17	11	6	-
豊平保育園	100	97	89	96	95	90	95
北山保育園	100	62	68	70	73	67	56
中央保育園	90	83	72	63	59	67	70
米沢保育園	120	64	70	82	81	99	108
金沢保育園	100	67	61	75	63	52	45
泉野保育園	60	43	43	49	43	42	36
小泉保育園	90	49	58	50	50	49	49
みどりヶ丘保育園	90	66	61	59	55	57	56
中大塩保育園	100	79	85	76	82	71	80
私 玉川どんぐり 保育園	210	207	209	207	202	194	188
私 わかば保育園	200	167	186	181	196	195	182
認 よこうち 認定こども園	120	121	124	129	126	119	112
認 ちのせいほ 幼稚園	105	-	-	-	-	92	94
認 野あそび保育 さきはら	25	-	-	-	-	-	34
総 計	2,240	1,767	1,776	1,780	1,738	1,807	1,792
入園率% (対定員)	-	82.4	82.8	83.0	81.0	80.3	80.0

注) 広域入所を含む

(3) 民営化の状況

令和4年4月1日現在、公立園入所児童数1,054人(66.37%)、私立園入所児童数534人(33.63%)の状況です。

以下のとおり、5園が民営化となっています。

- ・平成18年4月、玉川どんぐり保育園が私立保育園として開園。令和5年4月、幼保連携型認定こども園へ移行予定。
- ・平成26年4月、わかば保育園が私立保育園へ民営化。令和5年4月、幼保連携型認定こども園へ移行予定。

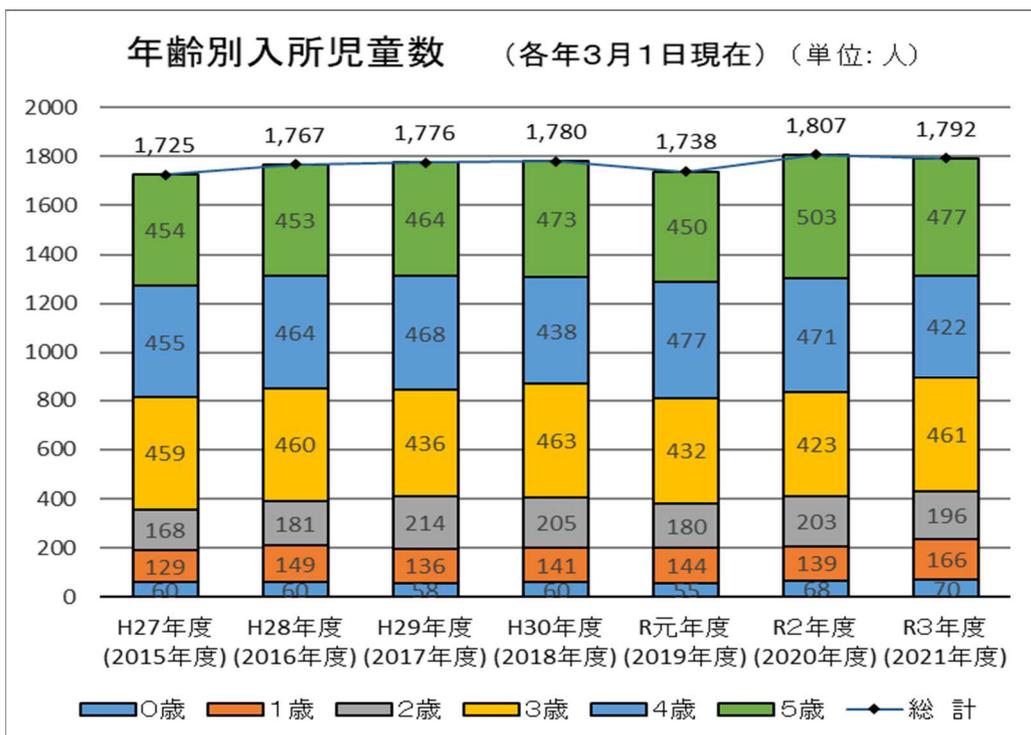
- ・平成27年4月、横内保育園が私立保育園へ民営化。平成29年4月、幼保連携型認定こども園「よこうち認定こども園」へ移行。
- ・令和2年4月茅野聖母幼稚園が、幼稚園型認定こども園「ちのせいぼ幼稚園」へ移行。名簿へ追加。
- ・令和3年4月笹原保育園が民営化。保育所型認定こども園「野あそび保育ささはら」として開園。

表－7 【年齢別入所児童数の推移及び将来推計】

各年度3月1日（単位：人）

	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R3年度 (2021年度)	R4年度 (2022年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)
0歳	60	60	58	60	55	68	70	70	57	56	58	55	55
1歳	129	149	136	141	144	139	166	153	174	145	157	158	158
2歳	168	181	214	205	180	203	196	217	208	219	190	206	205
0-3歳	357	390	408	406	379	410	432	440	439	420	405	419	418
3歳	459	460	436	463	432	423	461	372	393	333	370	320	320
4歳	455	464	468	438	477	471	422	438	374	398	333	370	320
5歳	454	453	464	473	450	503	477	417	445	373	398	333	370
3-5歳	1,368	1,377	1,368	1,374	1,359	1,397	1,360	1,227	1,214	1,104	1,101	1,023	1,023
総計	1,725	1,767	1,776	1,780	1,738	1,807	1,792	1,667	1,653	1,524	1,506	1,442	1,441

注) 令和2年度から認定こども園「ちのせいぼ幼稚園」を含む



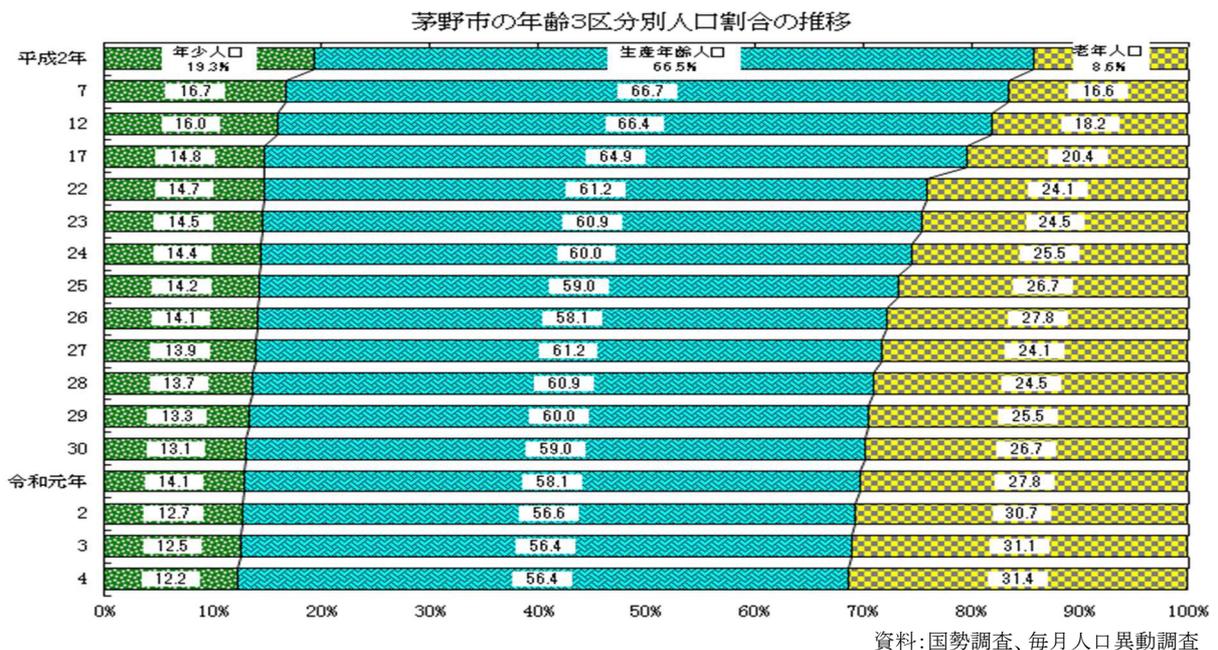
表－８ 【令和４年４月１日茅野市保育所入所児童数（受託児童を含む）】

中学校区	永明中		長峰中		北部中				東部中		計
小学校区	永明	米沢	宮川	金沢	湖東	北山	豊平	米沢、豊平、湖東	玉川	泉野	
地区名	ちの	米沢	宮川	金沢	湖東	北山	豊平	中大塩	玉川	泉野	
0歳	84	14	105	8	17	13	33	12	76	6	368
1歳	50	19	89	11	23	8	28	12	80	11	331
2歳	81	25	102	11	18	15	27	25	86	9	399
0,1,2歳住基人口	215	58	296	30	58	36	88	49	242	26	1,098
3歳	68	15	94	14	21	12	31	22	80	11	368
4歳	76	33	104	14	21	10	38	20	118	13	447
5歳	65	23	118	9	28	20	33	27	77	12	412
3,4,5歳住基人口	209	71	316	37	70	42	102	69	275	36	1,227
未就学計	424	129	612	67	128	78	190	118	517	62	2,325
公立園	ちの	米沢	宮川	金沢	湖東	北山	豊平	中大塩	玉川	泉野	公立園計
0,1,2歳	32	21	32	9	20	13	12	20	35	5	251
3,4,5歳	95	72	83	32	71	41	71	50	123	23	803
計	127	93	115	41	91	54	83	70	158	28	1,054
0,1,2歳	中央		宮川第二						小泉		
3,4,5歳	10		19						10		
計	33		40						33		
0,1,2歳			みどりヶ丘								
3,4,5歳			13								
計			36								
0,1,2歳			49								
私立園	よこうち		わかば		野あそび 保育 ささはら				玉川どんぐり		私立園計
0,1,2歳	33		35		1				33		102
3,4,5歳	70		127		34				125		432
計	103		162		35				158		534
0,1,2歳	ちのせいぼ										
3,4,5歳	0										
計	76										
0,1,2歳	75	21	99	9	21	13	12	20	78	5	353
対人口入所率%	34.9	36.2	33.4	30	36.2	36.1	13.6	40.8	32.2	19.2	32.1
3,4,5歳	274	72	286	32	105	41	71	50	281	23	1,235
対人口入所率%	131.1	101.4	90.5	86.5	150.0	97.6	69.6	72.5	102.2	63.9	100.7
計	349	93	385	41	126	54	83	70	359	28	1,588

※三井の森、中大塩の一部の児童は、湖東保育園へ行っている。

表－９

各年１０月１日現在



(4) 茅野市の保育・教育事業について

① 茅野市の保育と教育

茅野市ではすべての子ども達が「たくましく、やさしい、夢のある子ども」に育つことを願い、各園で特色ある保育に取り組んでいます。

子どもが自ら遊びたくなるような保育環境を整え、その中で友達と十分に保育園生活を楽しみ、充実した遊びや日々の生活、様々な活動の中で幅広く体得した学びが「生きる力」の基礎を育んでいます。

絵本や物語に親しみ言葉や心を豊かにする「絵本の時間」、自ら体を動かす楽しさや心地よさを味わう「運動あそび」、生活と遊びの中で食に関わる体験を積み重ねる「食育」、育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」、保育園と保護者との信頼関係を深め、育児の楽しさを見直す機会となる「一日保育士体験」が主な取り組みです。

その他にも、「豊かな自然の中で豊かな感性を育む」、「友達と遊ぶ中で人間関係の基礎を育む」、「生活リズムや生活習慣を身につけ自立心を高める」、「豊かな感性や表現する力を育む」、「異年齢の友達との関わりを通して、相手意識をもつ温かい気持ちを育む」ことを大切に、保育と教育に力を入れています。

安全保育では、小さな「ヒヤリハット」を丁寧に改善していくことで、大きな事故を防ぎ、食物アレルギー対応では、マニュアルに沿った確実な対応を行っています。

また、園児の安全対策と、保育業務の効率化を図るため、保育業務支援システムを導入し、子どもに目を向けられる時間を増やしています。

② 子ども・子育て支援事業

近年では、核家族化の進行などに伴い、子育て家庭が抱える悩みや不安が増えてきています。保育における需要も多様に変化してきているため、従来からの定型的な保育だけでなく、市民のニーズにきめ細かに対応するため、子ども・子育て支援事業計画に位置づけ支援体制の推進を図っています。

ア 乳児保育

ちのせいぼ幼稚園及び野あそび保育ささはらを除き、全園で受入れます。

イ 障害児保育

市内すべての園で、希望により実施しています。保育園生活をとおして共に成長できるよう、関係機関や家庭と連携して取り組んでいます。

ウ 延長保育

1日11時間の保育標準時間(7:30~18:30)を超えて保育を行う延長保育(18:30~19:00)を、公立園3園(ちの保育園、宮川保育園、玉川保育園)、私立園3園(玉川どんぐり保育園、わかば保育園、よこうち認定こども園)で行っています。

エ 一時保育

保護者の疾病や仕事など急な理由により一時的に保育が困難になった場合に、その児童を預かり保育をする一時保育事業を、令和2年度からは小泉保育園、宮川第二保育園の2園で実施しています。未満児の保育園入所が増加したこと、コロナ禍の預け控え、出生数の低下などの理由から、利用者が減少しているため、米沢保育園の一時保育は休止しています。利用状況を確認しながら、3園体制を検討します。

オ 病児・病後児保育

病気又は病気の回復期にあり、集団生活が困難な期間において一時的にその児童を預かり保育する、病児・病後児保育施設「おやすみ館」を、利用年齢を生後6ヶ月から小学校6年生までに拡大して実施しています。

カ 地域子育て支援拠点事業

乳幼児及びその保護者が相互交流を行う場所を保育園等に開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言等行っています。

表－10 【特別保育の実施体制】

保育所名	乳児保育	障害児保育	延長保育	一時保育
ちの保育園	○	○	○	
宮川保育園	○	○	○	
宮川第二保育園	○	○		○
玉川保育園	○	○	○	
湖東保育園	○	○		
豊平保育園	○	○		
北山保育園	○	○		
中央保育園	○	○		
米沢保育園	○	○		
金沢保育園	○	○		
泉野保育園	○	○		
小泉保育園	○	○		○
みどりヶ丘保育園	○	○		
中大塩保育園	○	○		
私 玉川どんぐり保育園	○	○	○	
私 わかば保育園	○	○	○	
認 よこうち保育園	○	○	○	
認 ちのせいぼ幼稚園		○		
認 野あそび保育さざはら		○		
総 計	17	19	6	2

(5) 保育園の職員の状況

平成27年4月にスタートした新制度による1日11時間の標準時間の設定や子育て環境の変化による保育形態の多様化や、令和元年度からの無償化も相まって、3歳未満児の増加、加配保育士の増加等により、保育士の不足が深刻な課題となっています。

保育士の処遇改善、働きやすい環境づくりや、保育士養成校との連携、保育士募集動画の作成など、保育士確保のための方策を行っています。

表－8 【職員の配置基準及び職員数（公立園）】

各年4月1日

年齢	児童数：職員数		職員数					
	国基準	茅野市基準	園長	主任	保育士	小計	会計年度任用職員	計
0歳児	3:1	3:1						
1歳児	6:1	4:1						
2歳児	6:1	6:1						
3歳児	20:1	20:1						
4歳児	30:1	30:1						
5歳児	30:1	30:1						
2019年(R1)			14	21	80	115	168	283
2020年(R2)			14	19	80	113	154	267
2021年(R3)			14	19	82	115	163	278
2022年(R4)			14	19	79	112	169	281

※7.75H育休代替クラス担任、7H保育士、加配保育士、支援員、休職事務代替保育士、保育サポーターを会計年度任用職員として計上
 ※クラス担任は、育休代替職員を除き正規保育士が受け持っている。

4 基本的な考え方

(1) 園舎における安全・安心の確保

園児の安全・安心を確保するためには、耐用年数に応じた園舎の整備を順次行っていく必要があります。

令和3年度には、茅野市公共施設保全指針が策定され、劣化度（外装材等の落下の危険性など）と機能性（建具の不具合や設備機器の故障により使用が制限される状態など）の2つの視点に基づき、リスク優先度、保全緊急度、施設重要性等から優先順位を決め、計画的に改修工事を行っていきます。

(2) 園舎の長寿命化の推進

今後の園児数減少の動向や多様化する保育形態への対応、また、公共施設等総合管理計画で示す公共施設の集約化や複合化等に柔軟に対応していくため、建替え等による園舎の更新でなく、性能を向上させるための大規模改修(リノベーション)を実施しました。

今後も建築年数の経過に伴い維持修繕工事の必要な箇所が増加すると考えられることから、日常的な定期点検を行うとともに、茅野市公共施設保全指針に基づく実施計画により、計画的な改修を行い園舎の長寿命化を図ります。

(3) 保育園の適正配置について

全国の市町村と同様、茅野市においても出生数が年々減少し、今後就学前児童数が減少してきています。それに伴い園児数の減少も進み、1保育園あたりの入園者数の減少が想定され、効率的な保育園運営が難しい状況となりつつあります。

また、核家族化の進展、共働き家庭の増加により、3歳未満児の入園増加が続いていますが、今後は出生数の減少が予想されます。園児数の減少や特別保育の充実を考慮し、将来的な建替えの際には、小学校、地区コミュニティセンターとの複合化や保育園の統廃合、小規模保育施設への移行を検討します。

なお、適正配置については、今後の園児数減少や多様化する保育形態の動向に応じて適宜見直し、検討を行っていきます。

(4) 質の高い保育の提供について

保育所等がこれまで積み上げてきた「保育の質」をさらに高めるため、研修計画を策定し、保育士一人一人の資質向上及び職員全体の専門性を高める研修を数多く実施しています。

日々の保育では、子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行い、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用して、保育を振り返ることで、意識を高めています。

また、保育士の過重労働や不適切な保育が生じることのないよう、休憩事務代替保育士等の配置をしています。さらに職場環境及び職員体制を整えていきます。

(5) 今後の公立保育園の役割と運営のあり方について

① 保育園のあり方アンケート結果

本市においては、子どもの人口は減少しているものの、核家族化の傾向、ひとり親世帯・共働き世帯の増加、勤務体系の複雑化等により、保育に対するニーズが多様化しており、未満児保育の需要増加、保育士不足など様々な課題があります。

このような状況を踏まえ、将来にわたって良好な保育環境を安定的に維持し持続していくための検討資料として、保護者の皆様のご意見・ご要望等をお聞かせいただくため、アンケートを実施しました。

回答者の家族構成は、85.0%が「夫婦と子どものみの世帯」であり、核家族化の進行が顕著となっています。

以下、集計結果です。

ア 保育園を選ぶ際に重視すること

「自宅から近い」という交通の利便性にあることがわかりました。これは、公立園を希望した理由とも重なります。

一方、私立園を希望した理由は、「特色ある保育が魅力だから」が、最も多い理由であり、私立園に期待する内容は、「英会話・英語あそび」、「運動あそび」、「自然保育・やまほいく」、「うたやリトミックなど音楽活動」の順であり、私立園が多様な保育をアピールできていることがわかります。

イ 保育園の規模

全児童数が「20人以下」で人数が少ないと感じ、「101人以上120人以下」で多いと感じています。人数が多い、ちの、宮川、玉川地区では、「151人以上」で人数が多いと感じている状況もあります。

ウ 保育所の数

「現在の施設数を維持できればよいと思う」が、54.8%でした。一方、「少子化に合わせて柔軟に見直してもよいと思っている」は、37.3%の状況でした。

エ 保育園の配置

児童数の多い、ちの、宮川、玉川、中大塩地区では、「1地区に1園以上は維持するが、公立でも私立でもよい」と考える方が多く、その他の地区（豊平を除く）では、「1地区に1園以上の公立保育園を維持するのがよい」という結果でした。豊平地区では、同数の状況です。

オ 少子化に伴う保育所の統廃合

「統廃合をしてもよいと思う」が48.1%、「統廃合はしない方がよいと思う」が31.6%でした。現在、園の人数が少ない泉野地区は57.1%、金沢地区は69.6%が「統廃合はしない方がよい」と思われていて、北山地区では同数でした。

どのような仕組みがあれば、統廃合してもよいと感じるかについては、「アクセスがよい場所にあること」が約半数でした。

カ 施設の複合化

「保育所単独で機能を維持していくのがよい」と43.0%の方が考えています。

キ 民間活力の活用

「特色ある保育のため、積極的に活用してほしい」と41.6%の方が考え、「慎重に考えてほしい」も35.6%の状況でした。民営化をするとしたら期待することは、「安心して預けられる運営をしてほしい」が30.5%でしたが、泉野地区では、「延長保育や休日保育を充実させてほしい」を要望する割合が多い状況でした。

民営化を考えるうえでの不安は、「個人で負担する金額が増えるのではないかな」や、「経営者のカラーが強く出て合わないのではないかな」という内容でした。

ク 小規模保育園（0～2歳児）

わからない方も多いですが、「未満児が入所しやすくなる」と81.3%の方が感じています。一方、利用したくない理由は、「3歳以上児のきょうだいと違う園になる」、「小学校就学まで在園することができない」という理由でした。

② 公立保育園の役割

公立保育園の役割を、園長会で以下のとおり検証しました。

ア 公的機関としての特徴を生かして、乳幼児期の保育・教育を担う役割

- ・保護者にとって安心して預けられる施設

イ 地域のセーフティーネットとしての役割

- ・地域の様々なニーズを幅広くとらえ、安心して預けられる環境を準備し整える。
- ・一時保育、土曜保育、病児病後児保育、希望保育などを実施している。

ウ 地域の保育水準の基準としての役割

- ・茅野市の保育理念を共有し、全園で「茅野市の保育と教育」に基づく保育に取り組む。保育の質を常に維持し、充実を図る。
- ・講習会・研修会などの参加を私立園、認可外保育施設に呼びかける。
- ・職員が幅広い年齢層であることや人事異動によって、各園の保育が一定の水準を保っている。

エ 地域の子育て支援の拠点としての役割

- ・地域の保育園で子どもが育つことは、地域の人との関わりが深まり、その後続く親密な関係の基盤となる。その基盤づくりの役割を担う。
- ・地域の身近な場所で、身近な人と子育て中の親子が気軽に交流や相談ができる環境を整える。
- ・地域の特徴や良さを生かした保育を取り入れ、その地域ならではの文化の継承を担う。

オ 保育行政としての福祉の役割

- ・特性を持つ子や配慮を必要とする子の保育の充実を目指し取り組む。
- ・平等にすべての子どもを受入れる。
- ・配慮を要する子どもや家庭への支援において、関係機関との連携が取りやすく、専門職とも密に連携が取れる。（庁内での緊密な連携）

カ 保育行政のアンテナとしての役割及び民間との連携

- ・国や県の動きをとらえ、茅野市の方針を決め、全体に向けて発信する。
- ・行政機関として園長会を軸に私立園との連携を図る。

5 整備計画

(1) 整備における基本方針

茅野市保育園管理計画前期計画において、整備計画の基本方針を定め、令和2年度までに、北山保育園、小泉保育園、中大塩保育園、宮川第二保育園の大規模改修と、みどりヶ丘保育園の耐震改修工事が終了しました。これにより、現在は、すべての園が耐震基準を満たしています。

耐震基準を満たしているものの、老朽化が進んでいる施設もあり、今後も公立保育園として運営していく保育園については、茅野市公共施設保全指針（都市計画課）に基づく実施計画により、計画的な改修を実施し長寿命化を図ります。

また、公共施設再編計画で示された公共施設の削減目標は、市が保有する施設の総床面積の5%となっていますが、公立保育園においては、リノベーションでの減築や民営化で、4.75%削減となりました。

公立保育園と民間保育園の役割分担、公立保育園の配置のあり方、民間活力を活用した保育園の運営など、公立保育園のあり方については、アンケートの結果と併せて検討しましたので、以下のように基本方針を定めます。

(2) 統廃合等の基本方針

基本的な考え方にに基づき、統廃合等の基本方針を次のとおり定めることとします。

- ① 地区に1つしかない保育園については、小学校との連携や拠点的役割を果たしていることから、地域での子育てを大切にし、地区一園体制を維持します。
- ② それでも、未満児を含め園児数が20人未満になれば、適正な保育規模ではないため、地域住民を含む関係者と十分な協議を行い、統廃合や民営化を検討していきます。
- ③ 4、5歳の合計人数が20人以下の場合は、2クラスを統合し1クラスとして混合保育を実施します。
- ④ 将来的な少子化に伴い、地区に複数園ある保育園で、園児数が30人を下回る場合には、統廃合や民営化を検討します。統廃合の検討は、現在の施設量に応じて、3歳未満児を含め、地区ごとに保育園合計定員数が予想園児数を上回るように計画します。
- ⑤ 施設規模における定員は、認可を受ける際の施設定員であり、利用定員とは差があります。少子化に伴い、私立園の利用定員について協議し、適正な施設型給付費を負担します。

(3) 個別保育園の計画

茅野市公共施設再編計画において、各園の対応方針を定めています。

○みどりヶ丘保育園

令和2年度(2020年度)に耐震改修工事に他に、外壁、屋根、天井、内壁、床の張り替え、LED照明化等を実施しました。

統廃合検討委員会での議論や今後の宮川地区の児童数の動向を踏まえる中で、10年間(令和12年度まで)は存続します。基本方針に基づき、統廃合の再検討、または多様な用途への変更を検討していきます。

また、区内で県営住宅の建設が計画されているため、今後の児童数等の動向に注視します。

(4) 日常的な定期点検の実施

公共施設等総合管理計画に基づき、日常的に定期点検を実施することで、施設の不具合を早期に発見し、修繕等の対応をします。工事費用を抑えつつ事故を未然に防ぎ、施設の安全・安心を確保します。

① 点検の方法

点検チェックリストを用い、主に目視により建物部位の錆やひび割れ、ふくれなどの異常を発見し、その進行状況を確認し、点検チェックリスト集計表にまとめ、各園の施設状況を把握します。

点検結果から不具合箇所の修繕、備品等の配置の見直しや簡易な固定等を行います。

② 点検者

日常業務の中で施設や設備の不具合を見つけ、危険箇所を察知できる各園の職員が行います。

(5) 長寿命化のための計画的な改修等の実施

公共施設等総合管理計画において、茅野市公共施設保全指針に基づき、全庁的に一元的な管理の下で、修繕等を実施することが定められました。

これにより、園舎の修繕等についても、施設ごと将来の利用を見据えた中で、茅野市公共施設保全指針の実施計画に基づき効果的な修繕を行っていきます。

○外壁改修工事

予防保全を図り長寿命化のため、令和4年度は湖東保育園外壁改修工事と泉野保育園外壁改修工事を実施しました。また、令和5年度は、玉川保育園と金沢保育園の外壁改修工事が計画されています。

6 私立保育園・認定こども園への補助

私立保育園・認定こども園においても、公立施設と同様に老朽化に対する改修や安心安全を守るための施設整備を行う必要があります。詳細は調査により決定していきますが、予算の範囲内で、保育所等整備交付金要綱（平成 30 年厚生労働省発子 0508 第 1 号厚生労働事務次官通知）及び認定こども園整備事業補助金交付要綱（平成 27 年私高第 103 号長野県官民文化部長通知）の規定により算出した額以内の補助を行います。

なお、令和 5 年 4 月 1 日付でこども家庭庁が創設されることに伴い、認定こども園に係る施設整備費を一元化するため、保育所等整備交付金、認定こども園施設整備交付金等が統合され、「就学前・保育施設整備交付金」となります。

7 茅野市保育園管理計画変更履歴

[第 1 回変更] 平成 29 年 12 月

- ・資料編を追加。
- ・【保育園の施設の状況】建物面積を修正。

[第 2 回変更] 令和元年 6 月

- ・みどりヶ丘保育園の個別計画を変更。
- ・個別保育園の計画を修正。
- ・資料編を修正。

[第 3 回変更] 令和 3 年 4 月

- ・笹原保育園の個別計画を変更。
- ・資料編を修正。

[後期計画] 令和 4 年 12 月（素案）令和 5 年 4 月（施行予定）

- ・統計資料の更新
- ・アンケートの実施内容の追記
- ・統廃合の基本方針の変更
- ・その他、社会情勢の変化などに対応した修正等